

第3学年 総合的な学習の時間 10月30日(水)

単元名 「おとしよりとなかよし」

3年生には、お年寄りとの関わりを通して、お年寄りに尊敬や感謝の気持ちをもつとともに、自分自身の生き方も考えて欲しいという思いで、この学習を設定しました。

始めに、身近なお年寄りを思い浮かべるところから学習がスタートしました。児童のほとんどは祖父母とは別々に暮らしています。また、児童の祖父母は60代70代といった年齢層の方が多く、80歳以上の高齢者と関わる経験は少ないということが分かりました。

◆あかね苑での交流

→あかね苑の利用者の方と楽しく活動しました。



市谷小学校の目の前にあり、自分達の祖父母よりも高齢のお年寄りと接することができる「あかね苑」を訪問しました。「あかね苑」では、デイサービス利用者の方々と、お話をしたり作業のお手伝いをしたりしました。

訪問前、子どもたちは楽しみにしていた反面、不安を感じていた子どももいました。「うまく話すことができるかな?」「怖い人だったらどうしよう。」抱えていた不安は、訪問後にはすっかり杞憂に終わっていました。目を輝かせながら、「また行きたい。」「もっと話したかった。」と感想を述べていました。

◆高齢者疑似体験

元気で優しい高齢者の方々と過ごし、さらに深く理解するため、高齢者疑似体験を行いました。アイマスク、耳栓、手足のおもり、ゴム手袋など、高齢者疑似体験用具を着用し、階段の上り下りや会話、細かい作業などの体験をしました。普段の

自分とは違う動きや感覚に戸惑いながらも、好奇心をもって取り組むことができました。



重りやアイマスクをつけて、高齢者疑似体験をしました。



◆お年寄りの元気の素(秘訣)は…?

高齢者疑似体験やあかね苑での交流から、お年寄りの様子について思ったことや気づいたことをクラス全体で発表し合いました。あかね苑での交流では、お年寄りの笑顔や元気なところが印象的だったという意見が目立ちました。しかし、高齢者疑似体験では、お年寄りが抱えている大変さや辛さに思いを馳せる意見が目立ちました。

そして、高齢者疑似体験から感じた体の大変さと、あかね苑で出会った元気なお年寄りとの違いから、元気の素(秘訣)があるのではないかと考えました。

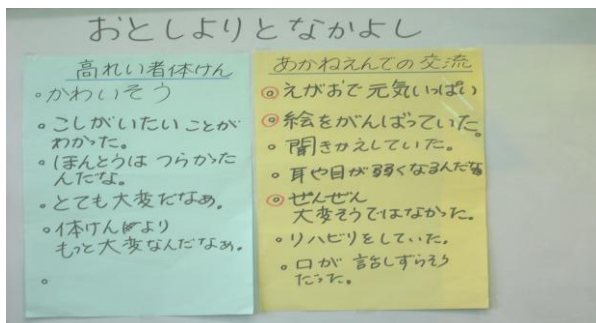
授業では、自分なりに考えた元気の素をワークシートに書きました。次に、3人グループで発表し合い、出た意見を表にまとめました。



←元気の素についてグループで考えました。

そして、キーワードとして挙がった言葉は「孫」「家族」「食べ物」「運動」「友だち」などでした。元気の素は、体と心にどのように関係するのか、さまざまな元気の素があるのではないかと、考えることができました。

総合的な学習を通して…子どもの感想



↑ 高齢者体験やあかね苑交流から思ったことを発表しました。

一番元気のもとになっていると思うのは「食べ物」です。なぜなら、食べ物をかむのは「歯」にけんこうだし、食べるとえいようにもなるからです。

(K さん)

おとしよりにとっては、休むことも元気のひけつの一つかなと思いました。おとしよりのことを考えるのは楽しかったです。

(O さん)

おじいさんやおばあさんが元気になるひけつは、まわりの人たちがやさしく声をかけてあげたりすることだと思いました。

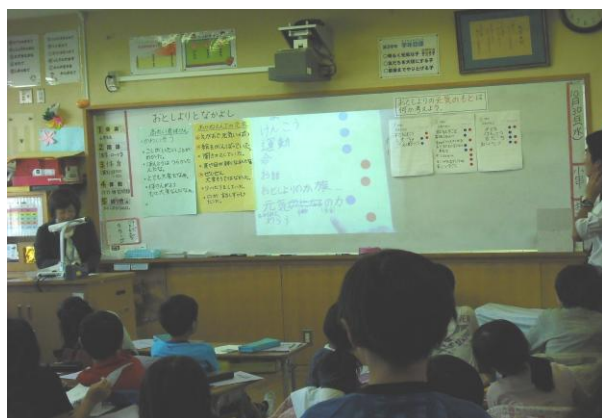
(Y さん)

おとしよりは、元気のもとをもっているから元気なのだと思います。もっとほかの元気のもと、あるのかと思います。

(N さん)



↑ お年寄りの元気の素について、グループで話し合いました。



↑ グループで出た考えを、クラス全体で発表しました。

食事やおしゃべりは、元気のもとになると思います。まわりの人がやさしく笑顔をふるまってくれたら、もっと元気が出ると思います。

(S さん)

おとしよりのみなさんはとても元気だったので、元気のもとをいっぱいもっているのだと思います。

(T さん)

その後の学習では…

子どもたち自身で考えたお年寄りの元気の素は、実際のところはどうなのか、高齢者の方にインタビューをして確かめます。健康に気をつけた生活をしていること、多くの人との関わり合いや生きがいを持っていることなど、生き方に関わる話を、インタビューをしながら子どもたちは聞いて欲しいと思います。

今の自分の延長線上に高齢になった自分があることなど、今の自分の生き方を大切にできる学習に取り組んでいきます。